

水稻・麦・野菜の管理のポイント

水稻・・・本格的に稻作の作業が始まります。

麦・・・登熟初期の湿害は根の活力が低下します。排水対策に努めてください。

## 水稻

### ●補植作業

補植は最小限に抑えます。欠株に対する補植は、連続して5株以上欠株がある場合のみ2～3株植えます。

※補植終了後の余剰苗は、いもち病の発生源になるため、速やかに処分します。

(苗は根を上にして畦畔などに置いて枯らします。)

### ●水田除草剤の散布

水田除草剤の効果を最大に發揮させるためには、水管理が重要なポイントとなります。水田除草剤は水に溶けて拡散します。水田の表面に除草剤の処理層を形成し、雑草が生育し処理層に触れることで除草します。このため、補植などの水田に入る作業を全て終えてから水田除草剤を使用し、使用後は水田に入らないようにしてください。また、除草剤散布後から7日間は水田の水位を3cm～5cmに保ち、除草効果を高めるためにも水が流れないよう漏水防止対策を講じることが大切です。

- ※ 農薬は必ず使用時期・使用方法などを確認してから散布を行うよう説明してください。
- ※ 環境こだわり米を栽培しているほ場では、農薬の成分数が7成分以下になるよう散布します。(参考資料として、令和2年産米水稻施肥設計書資材申込書に防除体系例が掲載されています。)
- ※ モゲトン等の県農作物病害虫雑草防除基準に載っていない除草剤は、成分数が少なくとも環境こだわり米には使用できません。
- ※ 同じ薬剤を数年続けて使用すると雑草が薬剤への抵抗性を持ってしまうため、3年に1度は除草剤の種類を変更し、抵抗性が出ないようにします。
- ※ 本田除草剤については『令和2年産米水稻施肥設計書資材申込書』を参考にしてください。

### 【主な水田雑草】



マツバイ



セリ



ノビエ



ヒルムシロ



アゼナ



コナギ



クログワイ



オモダカ



ホタルイ



クサネム

## ●中期剤の本田除草剤

剤型	1キロ粒剤	適用雑草名	3キロ粒剤	適用雑草名
商品名	<b>ザーベックスDX 1キロ粒剤</b>  湿水散布	水田一年生雑草	<b>ザーベックスSM 粒剤(3キロ)</b>  湿水散布	水田一年生雑草
		マツバイ		マツバイ
		ホタルイ		ホタルイ
		ウリカワ		ウリカワ
		ミズガヤツリ		ミズガヤツリ
		クログワイ		オモダカ
		ヒルムシロ		クログワイ
		アオミドロ		
		藻類による表層はく離		
容量	1kg		3kg	
使用量	1kg/10a		3kg/10a	
使用時期	移植後20~30日まで		移植後20~30日まで	
ノビエ葉期	ノビエ3.5葉期まで		ノビエ2.5葉期まで	
成分数	4成分		3成分	

## 【中・後期剤】

- |                     |                        |     |
|---------------------|------------------------|-----|
| ○クリンチャーバス ME 液剤     | 広葉雑草とノビエの同時防除 落水状態での使用 | 2成分 |
| ○セカンドショット S ジャンボ MX | ジャンボ剤 湿水状態での使用         | 3成分 |
| ○ワイドパワー粒剤           | 落水状態での使用               | 2成分 |
| ○サンパンチ 1キロ粒剤        | 湿水状態での使用               | 4成分 |
| ○アトトリ 1キロ粒剤         | 湿水状態での使用               | 1成分 |

## 【後期剤】

- |                  |          |     |
|------------------|----------|-----|
| ○バサグラン液剤・バサグラン粒剤 | 落水状態での使用 | 1成分 |
| ○クリンチャー 1キロ粒剤    | 湿水状態での使用 | 1成分 |

## ○小麦生育状況

県からの麦作情報については、5月中旬頃発表されます。  
現在は、暖冬の影響により出穂は平年より2週間程度早まりましたが、開花期が平年と変わりませんが、今後の天候（気温）次第で登熟期～収穫期が左右されますので営農担当者が収穫時期を判断いたします。

【参考：昨年の梅雨入り 6月26日 R1：荷受開始日：6月4日～】

## ○排水対策

引き続き、溝さらえなどの排水対策は収穫前まで徹底してください。

## 麦の収穫に備え下記の事項を生産者に説明してください。

- 適期収穫が行えるよう、生育状況を踏まえた収穫作業計画を立てる。
- 収穫後4時間以内に施設搬入ができるよう、稼動計画を立てる。
- 穀粒水分30%以下で刈り取るため、収穫前に水分測定を行う。
- 収穫時は、コンバインの回転数に注意し、損傷粒の発生を未然に防ぐ。